

OPEN

札幌市にお住まいの女性の方へ

# 子宮頸がん検診のお知らせ

料金後納  
郵便

転送不要



札幌市 保健福祉局 保健所健康企画課

## 子宮頸がん検診ってどんな検査？

検査時間は15分程度。痛みはそれほどありません。

1. 医師による診察
2. 細胞診



大きめの綿棒で子宮の入り口を軽くこすって細胞を採取。



採取した細胞は、専門の先生が顕微鏡で観察し、異形の細胞がないかをしっかり確認します。

子宮頸がんはHPV(ヒューマンパピローマウイルス)への感染がきっかけとなります。感染してもほとんどの場合は一過性ですが、ごく一部の人で感染が継続し、長時間を経てがんにいたることがあります。

注) HPVは、一度でも性交渉の経験があれば感染している可能性があります。

検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください※1

精密検査はコルポスコープ下の組織診・細胞診・HPV検査などを組み合わせて行います。

※1 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけれない場合もあります。

## 子宮頸がん検診の流れ

Step 1

### 実施医療機関に直接予約

実施医療機関は右記二次元バーコードよりご確認ください。  
注) 子宮頸がん検診は、生理日以外で受診してください。

Step 2

### 受診

医療機関で、保険証を提示。受診費用を支払い、受診。検査時間は15分程度。痛みはあまりありません。検査結果は後日郵送にてお知らせします※2。

受診費用の自己負担額については裏面をご参照ください。

※2 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有され、市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は最初に受診した医療機関にも後日、精密検査結果が共有されます。(医療機関の検診精度向上のため)

受診曜日や時間帯、女性医師による検診の提供など、詳細は各医療機関にお問い合わせの上、ご都合にあった医療機関に直接ご予約ください。

## 実施医療機関



がん対策推進協議会  
安心しんけん

札幌市ホームページで  
ご確認ください



こちらの右記二次元コード  
からもご確認ください▶▶▶

<https://www.city.sapporo.jp/hokenjo/documents/sikyu.pdf>



OPEN

## 今年度は、札幌市より約5,600円の助成\*があります！

子宮頸がん検診は助成がない場合、約7,000円の検査ですが、市の検診を受けると約5,600円の助成がでます。\*現金が支給されるわけではありません。

今年度の助成対象の方  
満20歳以上で原則偶数歳の方

※直前の偶数歳時に札幌市子宮がん検診を受診していない奇数歳の方は受診可能です。

窓口でのお支払い(自己負担額)  
北海道対がん協会札幌がん検診センター  
(東区北26条東14丁目 Tel:011-748-5522)

●子宮頸部のみ...1,100円 ●子宮頸部+体部\*...1,700円  
\*医師の判断により実施

指定の医療機関

●子宮頸部のみ...1,400円 ●子宮頸部+体部\*...2,100円  
\*医師の判断により実施

今年度の受診期間は  
令和4年3月31日まで  
5

お問合せ先(一般的なこと): 札幌市コールセンター  
電話: 011-222-4894 受付: 年中無休 8:00~21:00まで(検診予約は医療機関へ)

札幌市保健福祉局  
保健所健康企画課

〒060-0042 札幌市中央区大通西19丁目 WEST19 3F Tel.011-622-5151

札幌市がん検診ホームページ 札幌市がん検診 検索

詳しくはホームページをご覧ください。

例年、受診期限が近付くと大変混み合います。お早めにご予約・ご受診ください。  
この庄着はがきは、国立がん研究センター希望の虹プロジェクトが作成しました。

<https://www.city.sapporo.jp/hokenjo/sapporosigankensin.html>の二次元コード

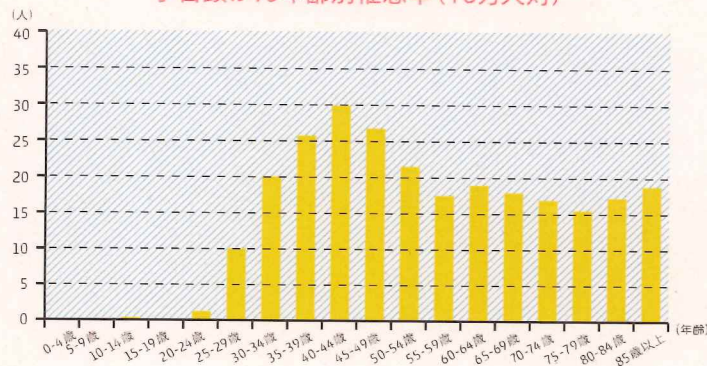
### POSTCARD

子宮頸がんは、20代後半以降から増え、特に30~40歳代の女性で近年増加傾向にあるがんです。

30代以降は  
人一倍  
気をつけないと



子宮頸がん年齢別罹患率(10万人対)<sup>\*1</sup>



子宮頸がんは、早期のうちにはほとんど自覚症状がありません。

「特に異常はないから大丈夫」そう思っていませんか？  
早期には自覚症状がないため、「異常を感じたら」では手遅れになる場合があります。  
早期に見つけるには、検診を受けるのが最善の方法です。

\*1 出典: 国立がん研究センター がん情報サービス「がん登録・統計」  
地域がん登録全国推計によるがん罹患データ(1975~2013年)

子宮頸がんは、早期のうちに治療すれば、  
90%以上が治癒します。<sup>\*2</sup>

子宮頸がんが進行すると、子宮摘出手術が必要となる場合もありますが、早期のうちに治療すれば、子宮を摘出せずに治療できるため、妊娠・出産も可能です。検診を受け早期発見・治療することにより、がんになるリスクや死亡リスクが減少します。

5年相対生存率

早期発見した場合  
(I期)

93.7%

早期発見できなかった場合  
(IV期)

25.4%

多くのがんは、2年に1度の検診で早期発見できます。ただし、中には急激に大きくなるものもあるため、月経(生理)以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則などの症状がある場合は次の検診を待たずに病院へ行きましょう。

\*2 ここでいう「治る(=治癒)」とは、診断時からの5年相対生存率です。  
相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。  
出典: 全がん協加盟施設における5年生存率(2010~2012年診断例)

子宮頸がん検診は  
2年に1度必ず  
受診してください

